横浜型児童家庭支援センター
ゆめのね

児童福祉法に基づき横浜市から認可を受け、2018年に開設した児童福祉施設です。
相談員や心理担当職員などを含め、10人の職員が支援にあたります。

実施事業

子ども・子育て 相談事業

0～18歳までの子どもに関する相談をお受けし、必要に応じて、関連機関と協力しながら解決に向けたお手伝いをします。

●相談時間は月～金曜の平日 10～17時
（※年末年始12/29～1/3を除く）
●男性スタッフ・女性スタッフが常駐

もしもし？

◆ 相談例 ◆
・子どもの発育状況が気になる…
・イライラして子どもに当たってしまう…
・（子ども）学校でイヤなことがあった…

子育て短期支援事業

2～12歳（小学生まで）の子どもを対象とした横浜市の委託事業で、利用の必要性を区や児童相談所が判断し、必要と認められた場合に利用できる事業です。利用には登録が必要で、世帯の収入に応じた利用料が発生します。

地域交流事業

イベントや子育てに役立つ講座などを通し、地域の方々と交流します。

里親子・ファミリーホーム等への支援

地域で生活する里親や里親宅で暮らす子ども、ファミリーホームの養育者の方からの相談をお受けしています。

相談方法をえらべます

電話	訪問	来所
匿名でも結構です。保護者の方はもちろん、お子さん自身からの相談もお受けします。	ご自宅でゆっくりお話ししたい方におすすめです。電話にてまずはご相談ください。	相談室をご用意しています。お子さんを遊ばせながら相談したい、という方もお気軽にご相談ください。

職員

センター長：山下

相談員：橋間、佐藤、毛利

心理担当：手嶋、川島

支援員：松下、佐々木、片井、三浦

子育て応援団長「のねさん」

好きなことは ひとのお話をきくこと。
夢は ふたばから花を咲かせて
お友だちにとどけることです。

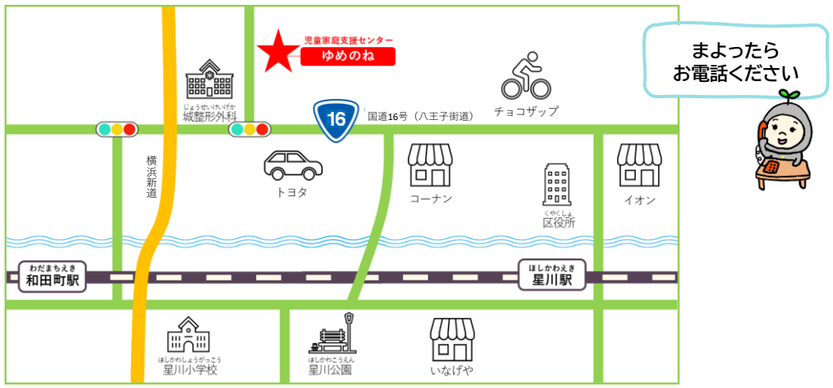
元気と成長のバロメーター
花が咲く、かも!?

ここぞ！というとき
色が変わる!?

じょうろは
支え合いのシンボル

アクセス

相鉄線　星川駅・和田町駅から 徒歩 約10分



まよったら
お電話ください

2025 5月

ゆめのね通信

～ 地域の子ども・子育て応援団 ～

No.10 ／2025（令和7）年5月25日発行
（1月、5月、9月の25日発行）
児童家庭支援センター ゆめのね
横浜市保土ケ谷区和田2-2-7 メゾン横山1階
TEL　045-465-4472　　発行責任者：山下 きよ子

地域交流事業など イベント参加のご報告

地域のみなさまに「子ども・子育ての相談事業所」として認知いただけるよう、日ごろより様々なイベントを実施しています。

2025 2月 養育者・支援者向け講座『包括的性教育の始め方』開催

昨年に昨年に引き続きやまがたてるえ先生をお招きし、地域の養育者及び子どもの支援にかかわる方を対象に、包括的性教育の啓発を目的とした講座を開きました。応募総数７６と、あらためて関心の高さが窺えました。アンケートでは「包括的性教育の基本的な考え方 を学べた」、「国際社会の中で日本の位置や科学的な観点を学べた」、「最新の情報が多くとても勉強になりました」等、多くの反響をいただきました。また、今回はゆめのね初のハイブリット型講演会（会場＆オンライン）を実施。今後も工夫を重ね、地域のみなさまと学びを深めていきたいと思います。

70名を超える方々にお申込みいただきました！

4月 2024年も「子育ておしゃべりカフェ」やります！

ゆめ喫茶のお茶・お菓子も毎回好評！ちょっとした工作もできますよ

昨年度好評だった「子育ておしゃべりカフェ」、今年度も隔月で開催します（日程の詳細は下記参照）。ほどがや地域活動ホームゆめのおもちゃ文庫は、乳児・幼児が楽しめるおもちゃやボールプールが人気の地域の方のための広場。そこへゆめのねの相談員・心理担当職員・支援員らがお邪魔して、みなさんとの交流を図ります。ゆめ喫茶の美味しいお菓子・お茶をご用意しお待ちしています。予約不要ですのでどうぞお気軽にお越しください！

5月 新企画！「おもちゃ文庫にゆめのね心理さんが訪問」

地域の親子のあそび場、おもちゃ文庫（ほどがや地域活動ホームゆめ内）にゆめのねの心理担当職員がする新企画「おもちゃ文庫にゆめのね心理さんが訪問」を始めました！発達にかかわるプチ講座（『こどもの見ている世界』）を開いたり、訪れた親子と交流しました。「心理ってなんだろう？」とあらためて考えるきっかけにもなりました！

5月8日に1回目を開催！
心理職員もドキドキしながらの展開でした

おもちゃ文庫のInstagramで 子育ておしゃべりカフェ や おもちゃ文庫にゆめのね心理さんが訪問 のお知らせ・様子がみられます！

チェックしてみてね

No.10／2025（令和7）年5月25日発行

マルっとほどがや

保土ケ谷区などで様々な活動をおこなう方々を
ゆめのね職員が訪問、紹介します

子どもたちの「わからない」を「わかる」に変えたい！

ほどがや無料塾

★ 開催日時　毎週金曜日　18:00～20:15
★ 主会場　和田西部町内会館 ／ かるがも2階（星川地域ケアプラザ）等
★ 対象　小・中学生
（※ 高校生は中学生時から継続の人のみ参加可）
★ 月会費　1人500円
（※ きょうだいも参加の場合は二人目以降250円）
★ 教える人　学習サポーター（学習支援ボランティア）～大学生や元教員
★ 連絡先　studyfree.hodo@gmail.com

ゆめのねインタビュー

ほどがや無料塾 実行委員長

越野 豊さん

大学卒業後、横浜市で中学校教員（数学）を40年務める。旭区で個人塾を開塾後、2013年、妻・容子さんや地域のサポーターとともにほどがや無料塾を始める。

ほどがや無料塾を始めたきっかけから教えていただけますか？

元々、市内中学校で数学の教員をしていました。40年務めた後、個人で学習塾を開いていたのですが、教え子の保護者さんから相談を受け、「だれでも入れる塾を作ろう」と思ったのがきっかけです。小学校の教員だった妻や保護者さんたちと2012年10月頃から構想を練り、2013年4月、「できるだけ無料に近い形で参加でき、だれでも入れる塾」をスタートさせました。

学校の授業だけでは理解できない子どもがかなりいます。「わからない、をわかるに変える」ことで子どもたちの自己肯定感を少しでも上げよう、それを第一に考えています。特に数学や英語のように積み上げ式の教科の場合、「ここがわからない」と子ども自身が自覚していなければいけません。ですので、授業という形はとらず、子どもたちに宿題や課題を持ってきてもらいます。

できるだけ無料に近い形は、参加者にとってありがたいですね

本当は無料にしたいのですが、いつも利用している町内会館の利用料がかかるのと、学生ボランティアの交通費だけは出してあげたいと思い、500円だけちょうだいしています。以前は月会費1000円でしたが、3年前から保土ケ谷区社会福祉協議会の「保土ケ谷区ふれあい助成金」の助成が受けられるようになり半額にすることができました。なお、経済的な条件に関わりなく学習支援が受けられる環境を作りたいので、世帯状況によっては授業料を減免しています。

サポーター（学習支援ボランティア）の存在も非常に大きいですね

はい。保土ケ谷には横浜国立大学（以下、国大）のキャンパスがあります。無料塾の構想時から、「教育学部があるし、学生が来てくれたら…」という思いはありました。開始当初3名だった大学生サポーターは、今では39名を数えるまでになりました。国大の協力で、授業で話をさせていただいたり、学生募集のチラシを配布させていただいたりしましたが、ここまで大学生サポーターが増えた一番の要因は学生たちの力だと思っています。学生向けの説明会の場所を工夫したり、地域イベントに参加して塾を周知したり、工夫の継続が実を結んでいると思います。「自分の大学のそばでも無料塾をやりたい！」と、東海大の学生が大学のある秦野市で去年から無料塾を始めたり、新たな展開も見せています。

参加者の数も、当初の14名から増えて現在は70名近くになっていますね

設立から５年目の２０１７年度あたりからぐっと増え始めました。なぜかというと、大学生サポーターが増えたからなんです。学生と参加者で１対１の状態が安定して作れるようになると、子どもたちの「わかる」が自然と増えます。「よくわかったよ！」と子どもから報告を受けた親御さんが周囲に話をしてくれて、参加者が増えていった印象ですね。地域イベントでチラシを見て参加してくれる子もいますが、７～８割は保護者や子どものつながりです。

また、開塾当初は「子どもたちの『わかる』を大切にする」「経済的条件に関わりなく学習支援が受けられる場」を目標にしていましたが、途中から「子どもたちが安心して通える居場所」も加わりました。無料塾では競争もなければ評価もありません。利害関係がなく、年の近い学生サポーターといろんな話ができる…、そういった要素が子どもたちの安心感につながっていると感じます。一方で、昔、小中学校受験で追い込まれ遊ぶ時間がなかったと吐露する大学生サポーターもいます。ここで子どもたちが見せる柔らかい表情を見るのが楽しいという声を聞いたとき、学生たちを含めたみんなにとっての居場所なんだなと感じました。

これからの夢や目標はありますか？

開塾から１３年目ですが、ここで学びながら大学に進学し、大学生サポーターとして活動してくれる子が現在３人います。そういう子が増えていくとうれしいですね。

7代目 学生代表

戸澤 玄 さん

横浜国立大学4年（教育学部）

大学2年生の時、サポーターを始めました。教員を目指すなかで子どもと触れ合える機会が欲しくて参加しました。子どもたちとしゃべっているとよく“脱線”しがちなんですが、“脱線”の中で子どもたちが初めて知ることもあったりして、それを持ち帰ってくれることがうれしいですね。居場所づくりの機能もあり、学習支援との両立は常に考えています。

地域イベントへの参加は塾を知ってもらう良い機会です。塾の子どもたちが手伝いに来てくれたり、学生同士が仲良くなるきっかけにもなります。今後は収益で参考書を買おうかなと思っています！

ほどがや無料塾の一日

18:00 ● 無料塾 開始
勉強道具を持参した小学生たちが続々とやってきます。

19:00 ● 10分休憩
部活終わりの中学生たちが「こんばんは～」と来塾。小学生たちは少しずつ帰宅します。

20:15 ● 無料塾 終了
学習サポーター会議を開き、気になったことや疑問点を共有。次の活動に活かします。

地域イベントに出店

学生サポーターが中心となり、星川ハロウィンや、べっぴんマーケットに出店！塾に来ている高校生が手伝いに来てくれたり、うれしい出会いもあるそうです

取材日は悪天候にもかかわらず20人以上が参加！真剣な表情あり、笑い声あり、の風景です

子どもたちの「わからない」を大学生サポーターが見守ります

社会人になってもボランティアを続ける元大学生もいるそう♪

お父さんがここを見つけてくれました。通い始めて3年になります。先生たちがとてもフレンドリーで、優しくて、アットホーム！勉強もできるし、大学生と趣味の話（アニメ）ができるのが何より気に入っています♪

Kさん（中学1年）